

令和8年8月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	8,174	12,132	6,162	5,970	18	25
2 千 石	4,855	7,558	3,817	3,741	△ 6	△ 23
3 内 山	5,953	8,078	4,252	3,826	38	55
4 大 和	3,789	7,048	3,530	3,518	19	26
5 上 野	7,929	15,706	7,676	8,030	10	△ 3
6 高 見	8,484	14,391	6,787	7,604	28	40
7 春 岡	8,586	12,577	6,643	5,934	11	△ 3
8 田 代	12,363	22,762	10,838	11,924	27	46
9 東 山	11,039	19,457	9,395	10,062	△ 3	△ 17
10 見 付	4,796	8,778	4,392	4,386	△ 25	△ 35
11 星 ケ 丘	3,832	7,061	3,169	3,892	7	6
12 自 由 ケ 丘	3,619	6,966	3,181	3,785	1	△ 6
13 富 士 見 台	6,765	14,981	6,891	8,090	△ 19	△ 25
14 宮 根	4,001	8,098	3,711	4,387	2	3
15 千 代 田 橋	3,845	8,141	3,792	4,349	4	△ 6
千 種 区 計	98,030	173,734	84,236	89,498	112	83
R7. 8. 1	91,079	165,626	80,314	85,312	178	168
対 前 年 比	6,951	8,108	3,922	4,186	△66	△85
名 古 屋 市	1,198,635	2,353,515	1,155,526	1,197,989	834	363
愛 知 県 (R8. 7. 1)	3,447,522	7,446,480	3,709,417	3,737,063	2,623	391

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	81	144	△ 63	1,109	963	146

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,734 (令和8年8月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注1) 本市の世帯数と人口は、令和7年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。

注2) 世帯数は、令和7年11月1日から算出方法の一部を変更しています。

千種区内の地下鉄各駅の乗車人員の状況

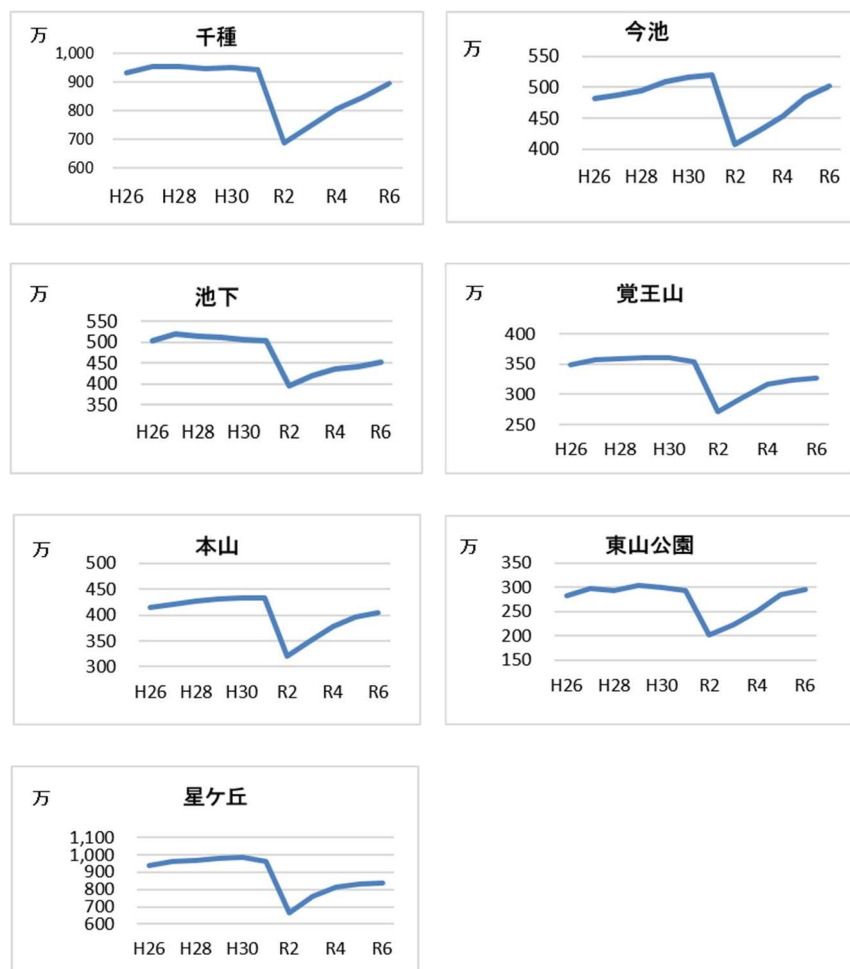


図 1：千種区内の東山線各駅の乗車人員数

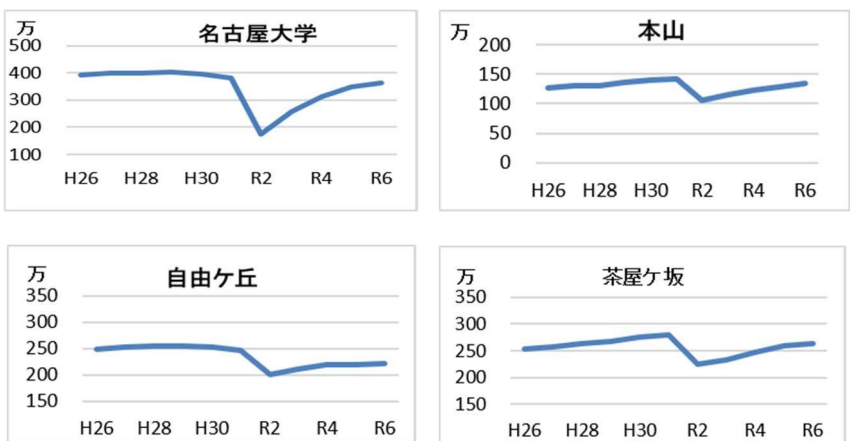


図 2：千種区内の名城線各駅の乗車人員数

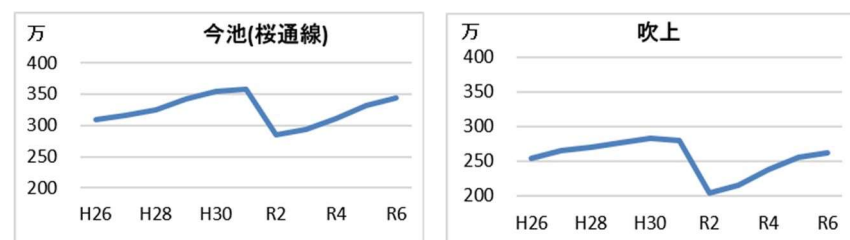


図 3：千種区内の桜通線各駅の乗車人員数

今回は、千種区内にある地下鉄各駅の乗車人数の状況を見てみます。各路線とも令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で乗車人員が大きく減少し、その後は回復傾向が見られます。

まず、千種区を東西に横断している東山線を見てみると、令和6年度の乗車人員数は、多い順に千種（約894万人）、星ヶ丘（約839万人）、今池（約502万人）、池下（約450万人）、本山（約405万人）、覚王山（約326万人）、東山公園（約295万人）となっています。

令和6年度はすべての駅で乗車人員数が増加していますが、ピーク時の平成30年度の乗車人員数まで回復していません。特に、星ヶ丘と池下は平成30年度の乗車人員数と比べると約11%から15%減少しており、東山線の他の駅と比較して減少率が大きくなっています。（図1）

つぎに、千種区を南北に縦断する名城線を見てみると、令和6年度の乗車人員数は、多い順に名古屋大学（約364万人）、茶屋ヶ坂（約264万人）、自由ヶ丘（約221万人）、本山（約134万人）となっています。

東山線と同様に、すべての駅で乗車人員数が増加しています。特に名古屋大学は、令和2年度の落ち込みが大きかったこともあり、令和2年度の約175万人から約108%増加と、他の駅（約20%増加）と比べて高い増加率となっています。（図2）

最後に桜通線を見てみると、令和6年度の乗車人員数は、多い順に今池（約344万人）、吹上（約263万人）です。こちらも他路線と同様、令和2年度以降は増加傾向が続いています。（図3）